

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

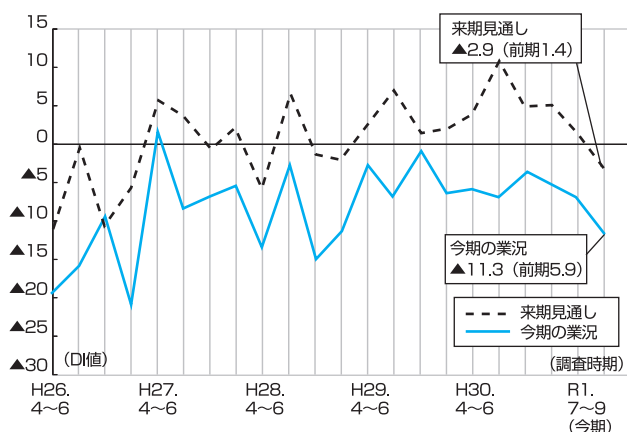
記号の見方

DI値	-25以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↘	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↗

鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間 2019年7月~9月
回答企業数 144社

■業況DIの推移



【来期(2019年10~12月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲2.9
(前期比マイナス4.3) ポイント
で、2年半ぶりにマイナスに転じた。
多くの業種で慎重な見通しが続くな
か、特に卸売業は厳しい見通しと
なっている。

【今期(2019年7~9月期)の景況】
全産業の業況DI値は、▲11.3
(前期比マイナス4.4) ポイント
で、3期連続で後退した。
産業別の業況DIを見ると、製造
業は改善したが、それ以外の業種は
すべて低下し、特に卸売業は大きく
悪化した。

今期業況は3期連続で悪化、来期見通しは2年半ぶりにマイナスに転じる。

■産業別DI値表

		前期 [2019.4~6] (A)	今期 [2019.7~9] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [2019.10~12]	
業況	全産業平均	▲6.9	▲11.3	▲4.4	▲2.9	→
	製造業	▲9.4	6.3	15.7	3.0	→
	建設業	0.0	▲7.4	▲7.4	▲3.8	→
	卸売業	▲17.4	▲40.0	▲22.6	▲20.0	↘
	小売業	▲7.7	▲16.0	▲8.3	0.0	→
	サービス業	▲2.7	▲10.8	▲8.1	0.0	→
売上額	全産業平均	▲5.5	▲9.9	▲4.4	▲3.6	→
	製造業	0.0	▲24.2	▲24.2	▲9.1	→
	建設業	7.4	7.7	0.3	4.2	→
	卸売業	▲4.5	▲35.0	▲30.5	▲30.0	↘
	小売業	▲19.2	▲4.0	15.2	▲4.2	→
	サービス業	▲10.5	0.0	10.5	10.5	↗
資金繰り	全産業平均	▲4.1	▲3.5	0.6	▲3.5	→
	製造業	▲9.7	▲6.1	3.6	▲6.3	→
	建設業	7.4	11.1	3.7	▲7.7	→
	卸売業	▲17.4	▲25.0	▲7.6	▲15.0	↘
	小売業	▲7.7	▲19.2	▲11.5	▲8.0	→
	サービス業	2.6	10.5	7.9	10.5	↗
採算	全産業平均	▲5.6	▲14.9	▲9.3	▲7.9	→
	製造業	0.0	0.0	0.0	▲3.0	→
	建設業	0.0	0.0	0.0	▲16.0	↘
	卸売業	▲4.5	▲50.0	▲45.5	▲15.0	↘
	小売業	▲11.5	▲26.1	▲14.6	▲8.7	→
	サービス業	▲10.8	▲13.2	▲2.4	▲2.6	→

【今期の売上額・資金繰り・採算】
売上額の全産業DI値は、▲9.9
(前期比マイナス4.4) ポイン
トと低下。小売業とサービス業は改
善したが、卸売業と製造業は大きく
低下した。
資金繰りの全産業DI値は、▲
3.5 (前期比プラス0.6) ポイ
ントとほぼ変化なし。建設業とサー
ビス業は改善したが、小売業と卸売
業はマイナス幅が拡大した。
採算の全産業DI値は、▲14.9
(前期比マイナス9.3) ポイン
トと後退した。製造業と建設業は横ば
いであつたものの、その他は悪化し、

・顧客企業のコスト削減意識は依然
として高い。消費税増税後の消費
低迷の懸念や、人件費の高騰など
不安要素も多く、厳しい経営環境
が続くと思われる。(卸売)
・消費税増税前の駆け込み需要があ
るものの、商品の手配が難しく
なっている。(小売)
・消費税増税により、消費者がより
低価格志向になると予想される。
対応策を検討中。(サービス)

【回答企業のコメント】
特に卸売業は前期から45.5ポイン
ト減と著しく悪化した。